

令和7年度美園小学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：25006

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課題
<p>◇学校評価アンケートの結果から、自己の高まりを実感している児童の割合が高くなっていることが分かった。理由としては、日々の授業の振り返りを充実させたこと、各担任が日々の授業内容を工夫していることが考えられる。</p> <p>◇タブレット端末を使った学習を、教員も子どもたちも意欲的に行っている。端末を利用した学習を研修で学び、授業に生かすことができている。</p> <p>◇地域や専門機関を連携し、体験的な授業を行うことで、子どもの学ぶ意欲を高めている。</p>	<p>◇各学年における知識及び技能が定着しないまま、学年が上がり、困っている子がいる。特に算数では、前の学年での知識及び技能を活用する場面が多いので、少人数指導を充実させることで改善していきたい。</p> <p>◇素直な子どもたちが多いため、真剣に課題に向かうことができる。しかし、難しい課題や自ら課題を見付けることが、苦手な子どもたちは少なくない。</p> <p>◇既習や生活経験とのずれから子どもの問いを引き出すことで、課題の発見力を育てていきたい。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇本校では、研究の視点に「つながり」というキーワードがある。特に学習の中で友達同士のつながりや前時や単元間のつながりを深めていけるように、「つながり」を意識して、各担任が授業を行っている。自分の意見を「発表したい。」という子が多い中、他の友達の意見を「聞きたい。」という意識がまだ低いので、今後の課題としていく。また、課題の解決に向け、「発表してよかった。」「聞いてよかった。」と思える場を授業の中に設けていく。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

自らの伸びや高まりを実感し、新たな目標に向かう力

	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
取組	<p>◇「わかる・できる・楽しい」笑顔のある授業を行い、子どもの「～たい」を引き出す</p> <p>◇子どもたちの「使える!」「つながる!」を生み出すことができるようきめ細かな指導を行う。</p> <p>◇学習対象を身近なものに設定することで、具体的にイメージすることができ、学習の見通しをもてるようにする。また、図や写真、実物投影機、タブレット端末を積極的に活用するなど視覚的に捉えられるにする。</p> 	<p>◇教師が子どもの話をしっかりと聞き、認め励ましながら実現に向けて一緒に取り組む。</p> <p>◇研究主題に設定した「つながり」を自分自身の成長においても捉えられるようにしていく。具体的には、学習のみならず様々な教育活動の後に、子ども自身の気付きを明確にしたり、自分の伸びを実感したりすることができるように振り返りの場を設定する。</p> <p>◇学級会や話し合い活動において、発達段階に応じて、自分たちの生活を振り返る中で課題を見出し、子どもたち自身で解決に向けて話し合いを進めることができるよう教師の関わりを減らしていく。委員会活動においても、子どもたちの自治的な活動を推進していく。</p>

〈本プログラムの実行に向けて〉

